

出題年度：2026 年度

<問3>

【出題意図】

敬語の在り方について考察し、身近な事柄に対する洞察力や論理的思考力を養うことを目的としている。そして、以下の能力を確認することをねらいとしている。

- ・ 日常生活の中から論点を見出し、多様な視点で考える力。
- ・ そして、論理的に思考を整理し、自身の意見を明確に述べる力。
- ・ 制限字数内で一貫性のある主張を展開し、適切な構成の文章を作成する力。

【模範解答（評価ポイント）】

以下の要素を持って、内容を評価する。

- ・ 敬語は単なる規則ではなく、相手との距離を測り関係を円滑にする調整装置である。相手への配慮や自らの立場認識を言語化したものといえる。
- ・ 言葉遣いは相手をどう捉えているかを示す。医師が菌にまで敬意を払うような丁寧な話し方をした際、その姿勢から誠実さと配慮を感じて好感を持った。敬語は、話し手の相手に対する敬意を直接的に伝えることができる。
- ・ 敬語は関係の変化も映し出す。親密になるにつれ言葉を崩す過程は相互理解の証となる。逆に、仲深まる中で過剰な敬語を使い続けると、相手に冷たさや壁を感じさせてしまうこともある。
- ・ 敬語の本質は、形式的な正誤ではなく相手を尊重する点にある。ルールを暗記するのではなく、相手を想像し距離感を選び取る生きた表現として捉えるべきだ。